

織田信長の東美濃攻略

絵図冊子

みのかも定住自立圏其生・ビジョン事業
美濃加茂市・坂祝町・富加町
令和二年発行



※織田信長の東美濃攻略

永禄3年(1560)に桶狭間の戦いで今川義元を破った織田信長は、翌4年(1561)に松平元康(後の徳川家康)と同盟を結び、美濃攻めへと重心を移します。最初は西美濃(現在の岐阜県西濃地方)から攻め込みましたが、同6年(1563)の小牧山築城・居城移転以降、犬山、そしてその背後にある東美濃(現在の岐阜県中濃地方南部)からの攻略へと切り替えます。当時、恵那郡や土岐郡などの東濃勢力は甲斐武田氏と繋がっていたのであまり刺激することはできません。東濃であれば東濃の勢力を牽制しながら、木曾川と長良川の中流域を押さえ、美濃の国主である斎藤龍興の居城稲葉山城の背後をとることができます。それが信長の東美濃攻略の戦略であったと思われます。

永禄8年(1565)、犬山城を攻略した信長は木曾川を越え、いよいよ東美濃攻略が始まります。信長の家臣太田牛一が記した『信長公記』(首巻)などには、尾張と美濃の国境沿いに位置する鵜沼城(宇留摩)・猿啄城攻め、加治田城主佐藤紀伊守・右近右衛門父子の織田方への内通、牛一人も参戦し東美濃攻略最大の激戦となった堂洞合戦が記されています。一連の合戦に信長はいずれも勝利し、これにより美濃の勢力圏が大きく変わり、その後の稲葉山城攻略(永禄10年(1567))に繋がっています。東美濃攻略が成功していなければ、織田信長のその後は変わっていたかもしれません。戦国史にとって非常に重要な合戦であるとともに、私たちが暮らす地域にとても大切な歴史であるといえます。

[出典]『夕雲の城』資料編(4頁~6頁)、『夕雲の城外伝 猿啄の春』資料編(7頁~9頁)

織田方 小牧山城

KOMAKIYAMAJYOU

地図面: D6
所在地: 愛知県小牧市堀の内



発掘調査で見つかった石垣(小牧市教育委員会提供)

濃尾平野北東部にある標高85.9mの独立丘陵にあります。織田信長は始め西から美濃攻略を進めますが、方針転換し、永禄6年(1563)小牧山に新たな城を築きます。その後、同城を本拠に尾張北部・東美濃・稲葉山城を制圧し、念願の美濃統一を果たします。

なお、発掘調査により主郭周囲から最大3段の段築状石垣や墨書き石材(「佐久間」)が見つかることなど、安土・岐阜に先行する石垣づくりの城として注目されています。



アクセス
名鉄各務原線鵜沼宿駅下車、徒歩45分
JR鵜沼駅もしくは名鉄犬山線新鵜沼駅から
ふれあいバスで丸子団地バス停下車、徒歩30分

織田方 伊木山城

IGIYAMAJYOU

地図面: D4
所在地: 岐阜県各務原市小伊木四丁目

標高173mの伊木山頂に位置し、南麓直下には木曾川が流れています。『信長公記』首巻によると、永禄8年(1565)の宇留摩(鵜沼)城攻めの際、織田勢は伊木山を抑え「御要害」を構築するなど、前線拠点として機能しました。

また、各務原市埋蔵文化財調査センターの発掘調査により、6つの曲輪(東西約90m・南北最大約35m)と曲輪切岸面での石垣構築(人頭大のチャート角礫)が確認されています。

発掘調査で見つかった石垣(各務原市埋蔵文化財調査センター提供)

発掘調査で見つかった石垣(各務原市埋蔵文化財調査センター提供)

なお、発掘調査により主郭周囲から最大3段の段築状石垣や墨書き石材(「佐久間」)が見つかることなど、安土・岐阜に先行する石垣づくりの城として注目されています。



アクセス
名鉄各務原線鵜沼宿駅下車、徒歩45分
JR鵜沼駅もしくは名鉄犬山線新鵜沼駅から
ふれあいバスで丸子団地バス停下車、徒歩30分

斎藤方 加治田城

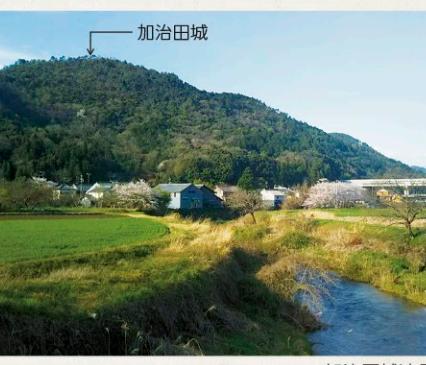
KAJITAJYOU

地図面: E2
所在地: 岐阜県加茂郡富加町加治田

富加町加治田にある古城山山頂(標高271m)に位置し、近接する堂洞城とともに美濃攻略の足掛かりとなったことが、「信長公記」首巻や江戸時代の軍記物(『堂洞軍記』など)に記されています。『信長公記』によると、加治田城主佐藤紀伊守・右近右衛門父子が「良澤」という家臣を遣わし内通の意を伝えた所、信長は「御祝着不斜」としても喜び、良澤へ兵糧備蓄用に「黄金五拾枚」を遣わしたとあります。その後、閑の長井隼人が堂洞に「取出」を築き加治田を牽制したため、佐藤紀伊守は信長へ「度々」救援要請を出したと『信長公記』首巻(天理本)は伝えています。なお堂洞落城後、信長は佐藤右近右衛門の屋敷で宿泊、翌日に「山下の町」(加治田城下町)で首実検を行っています。

現在、城跡には主郭南西面に人頭の大石垣が一部露呈するほか、周辺に腰曲輪、帯曲輪などの平坦面もあります。また、主郭東側には石垣(長さ約1mのチャート角礫、1段のみ露呈)を用いた虎口が残っており、丘陵傾斜との傾きの違いから複数段積まれていた可能性が指摘されています。さらに、虎口を東へ下ると4本の堅堀と帯曲輪もあります。

加治田城へは白華山清水寺の二天門東側から登り口があり、案内看板や見学者が整備されています。



加治田城遠景



虎口に残る石垣



アクセス
東海環状自動車道富加門ICより車で約20分

斎藤方 猿啄城

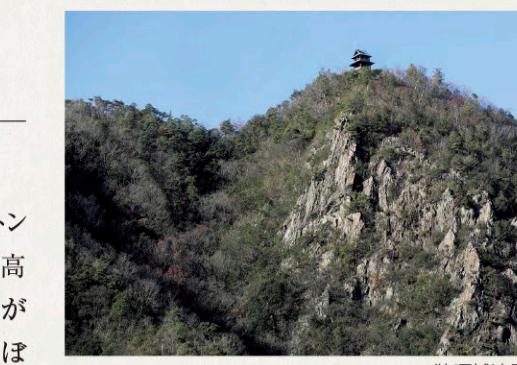
SARUBAMIJYOU

地図面: E4
所在地: 岐阜県加茂郡坂祝町勝山

各務原市鵜沼から国道21号線勝山トンネルを抜けると真上に屹立するのが標高265mの城山で、この山頂に猿啄城跡があります。城山は西側にあるとされる“大ばて山”より東に伸びた尾根の先端にあり、城の南側には桜谷・水の手の急坂、東側も現在登山道となっている急坂、南西と北は急峻な山続きで、麓に木曾川・迫間川・洞川が迫る、まさに天然の要害と言える場所にあります。山裾を走る中山道や犬山市栗栖への渡し場跡等、犬山・鵜沼と美濃加茂・富加方面を結ぶ交通上の隘路を押さえる要衝でもあります。猿啄城の構造については、天主臺・櫓臺・石垣などは文化13年(1816)頃には残っていたと『美濃雑事記』に書かれています。

織田信長は永禄6年(1563)小牧山の築城を足掛かりに尾張一国を統一し、犬山城の対岸伊木山に陣を構え鵜沼城を攻略します。その後、永禄8年(1565)「猿啄城の攻防」で丹羽長秀、河尻秀隆によって落城に至り、城主多治見修理は甲州に落ち延びたともいわれています。

平成9年(1997)、坂祝誕生100周年記念として、城山山頂に展望台が建てられ、恵那山や中央アルプス、御嶽山、白山などの山々、晴れた日には遠く伊勢湾や名古屋駅前の高層ビルも望めます。



猿啄城遠景



主郭南西に残る石垣



アクセス
東海環状自動車道美濃加茂ICより車で約15分
東海北陸自動車道関ICより車で約15分

斎藤方 美濃金山城

MINOKANEYAMAJYOU

地図面: G3
所在地: 岐阜県可児市兼山

可児市兼山にある古城山山頂(標高276m)に位置し、山麓直下に木曾川と「兼山湊」、南側に中世中山道がありました。陸上交通・河川交通・木曾川中流域の物流拠点、それらを有する好位置に美濃金山城は立地しています。

同城は、天文6年(1537)に斎藤大納言が烏峰城という名で築城しました。その後、同17年(1548)に久々利氏(土岐悪五郎)によって暗殺され、久々利氏は城番を置きますが、永禄8年(1565)には長井隼人が城主となっていました。

「織田信長の東美濃攻略」と烏峰城との関わりを知る手掛かりとして、「(永禄8年)9月9日付け直江大和守景綱宛織田信長書状」(『歴代古案』)という史料があります。史料には、「然者犬山令落居候、其刻金山落居候、其外數ヶ所降參候」とあり、同年9月9日時点で信長は犬山城だけでなく、東美濃の拠点城郭烏峰城も攻略し、さらには周辺拠点「数ヶ所」も降参させたことが分かります。その後、信長は烏峰城を森可成に与え、可成は入城に際し金山城と城の名を改めました。

なお、近年では可児市教育委員会による発掘調査に加え、地元住民と協働した整備活動が進むなど、官民一体となった城跡保護・活用活動が行われています。



発掘調査で見つかった主郭石垣(可児市提供)



アクセス
名鉄鉄道線「明智駅」下車。そこからYAOバスで「城戸坂」バス停下車、徒歩約15分

斎藤方 堂洞城

DOUBORAJYOU

地図面: E2
所在地: 岐阜県加茂郡富加町夕田

堂洞城は、南北に細くのびた山の頂上(標高192m)にあり、周囲の平野部との比高差は約90mです。山頂の最も高い場所が主郭とされ、周囲は切岸状となっているものの、自然地形を良く残しています。ただし、土壘・虎口などの防御施設は認められません。眺望は、北に所在する加治田と西の夕田・羽生方面は開けていますが、他は限られており、近隣の集落や街道などの密接な結びつきは考えにくいです。これらは、加治田城を攻撃するための付城として築かれたことに由来するのでしょうか。

城跡へは、蜂屋町中峰屋の伊豆神社・池奥池を経て、東西にのびる尾根伝いの街道から向かいます。その山中には、大きな凝灰角礫岩があります。「八豈岩」と呼ばれ、「城主の岸勘解由たちが酒盛りをした」と地元で伝えられています。

なお、「信長公記」の作者太田牛一は堂洞合戦に実際に参戦しており、城近くの「高き家の上」から無駄矢も使わず敵を射倒す活躍を挙げています。また「信長公記」首巻(天理本・個人蔵本)には、牛一の様子を信長は「高き塹」から見ていましたとあります。これについては近年、城跡から西へ約430m先にある夕田茶臼山古墳が有力な候補地であると指摘されています。



堂洞城遠景(西から)



堂洞城の主郭(拡大)



アクセス
東海環状自動車道富加門ICより車で約20分

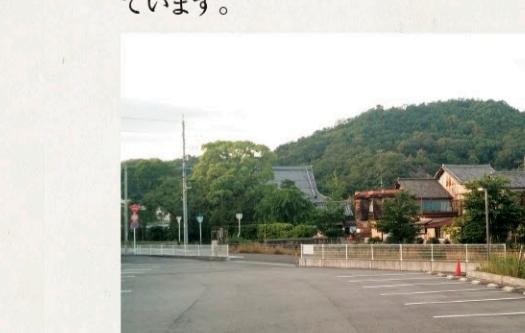
斎藤方 関城

SEKIJYOU

地図面: D2
所在地: 岐阜県関市山ノ手(安桜山公園)

標高152mの安桜山山頂に位置し、山頂に南北10m・東西30mの主郭、北斜面に腰曲輪や堅堀が残されています。『信長公記』首巻によると、織田方へ内通した加治田佐藤氏に対抗するため、斎藤家の重臣長井隼人は堂洞に「取出」を築き、自らも間に陣を構えました。

なお、堂洞落城後、織田勢(斎藤新五など)が闇へ攻め寄せたため、城主長井隼人は退散したと『堂洞軍記』などに記されています。



関城遠景(関市文化財保護センター提供)



アクセス
東海北陸自動車道関ICより車で約10分

斎藤方 稲葉山城

INABAYAMAJYOU

地図面: B3
所在地: 岐阜県岐阜市天守閣ほか

標高329mの金華山山頂に位置し、永禄10年(1567)までは後斎藤氏の本拠地でした。『信長公記』首巻によると、堂洞合戦翌日に加治田城下で首実検を終えた信長は、「井口」(稲葉山城)と「閑口」(閑城)からの斎藤勢(「三千余」)に襲撃されますが、見事退却を成し遂げます。

なお近年、岐阜市教育委員会が行った分布調査により山上部から道三期の石垣が見つかることなど、後斎藤氏段階の姿も分かり始めています。



アクセス
JR東海道本線「岐阜駅」または名鉄名古屋本線「名鉄岐阜駅」下車。バスで岐阜公園歴史博物館前下車。そこからロープウェイまたは徒歩で山頂へ。